

ごみ出しのマナー

◆燃やすごみ
(市指定ごみ袋で出す)

台所ごみ、紙類、ビニール袋、布類、皮・ゴム製品類、木くずなどの燃やすごみは、市指定ごみ袋に入れて、しっかり結んで出してください。

ごみ出しのルール

朝8時30分までに出す

収集日の朝8時30分までに、地域で決められたごみターミナルへ出してください。



分け方・出し方
ガイドブック

ルールやマナーを
再確認しましょう

正しく分別する

「家庭ごみ収集カレンダー」でごみの収集日を確認してください。

また、加西市公式LINEを登録すると収集日の通知が届きます。



◆紙パック・トレイ
(透明または半透明の袋で出す)

紙パックやトレイは水で洗い、透明または半透明の袋に入れて、ごみターミナルへ。

※紙パックは水で洗いひもで結んで出す。



◆ペットボトル
(透明または半透明の袋で出す)

- ①ペットボトルからラベルとキャップを取り外す。
- ②ペットボトルを水で洗う。
- ③ペットボトルとキャップは透明または半透明の袋に別々に入れて、ごみターミナルへ。

※キャップは小袋に入れて出す。



◆埋立ごみ
(市指定ごみ袋で出す)

ガラス類・電球類、陶器類などは、市指定ごみ袋に入れて、しっかり結んで出してください。
※紙などで包み、袋に「割れ物注意」と書いてください。
※30cm以上大きさの燃やすごみ・埋立ごみは、粗大ごみとして加西市クリーンセンターへ。

◆びん(3種類のドラム缶)

出せるのは飲料用や食料用のびんで、それ以外は埋立ごみです。

びんは中を洗い、色分けしてびんステーションに設置された3種類のドラム缶(茶色、無色、その他)へ。



こんな分別はやめましょう



板ガラスが混ざっている。



びんのドラム缶にいろんな袋が混ざっている。



1つのドラム缶にいろんな種類のびんが混ざっている。



リチウムイオン電池の廃棄には注意してください！

「リチウムイオン電池」が原因とされる発火事故が、収集車や廃棄物処理施設で増えています。この電池は、スマートフォン、ゲーム機器、電子タバコ、掃除機など、多くの家電製品に内蔵されています。

●スマートフォンやゲーム機器、電子タバコなどは「小型家電収集日」にごみターミナルへ。

●掃除機などは「加西市クリーンセンター」へ直接搬入。

また、ライター(ガスを抜いて燃やすごみ)や中身の残ったスプレー缶(穴を開けて資源ごみ)も火災の原因となります。発火する恐れのあるごみの分別にご協力をお願いします。



収集ごみ火災の鎮火後の様子

収集したごみの中に可燃性のガスが残ったままのカセットボンベやライター、または火花が混ざっていたのが原因でした。

実践すると

約3,000万円
経費削減が可能です

ご協力を
お願いします！

生ごみをしぼってダイエット
家庭から出る燃やすごみ5930トのうち、約4割が生ごみで、そのうち約80%は水分(約1900ト)です。これを1世帯あたりに換算すると、年間約102トの水を焼却施設で処理していることになります。
また、加西市のごみ処理費用は、10割あたり約300円です。そこで「生ごみひとしぼり運動」によって、約1900トのうち約50%を削減することで、年間約3千万円の経費削減につながります。
さらに、ごみの腐敗による悪臭対策や、ごみが軽くなることで持ち出しやすくなります。

減量

「生ごみひとしぼり運動」を実践しましょう

生ごみひとしぼり運動

1



まとめる

生ごみ専用ネット(穴が少し空いている袋)などにまとめて入れる

2



しぼる

生ごみをギュッとしぼって水分を十分に落とす

3



減量して出す

しっかり水が切れたら、そのまま市指定ごみ袋へ入れてごみに出す

夏の悪臭対策にも

できることから始めよう

食材は必要な分を

●食べきれない分、必要なものだけ買い物をする。

●定期的に冷蔵庫をチェックし、賞味期限内に食材を使いきる。

●食べきれない量は、冷凍、冷蔵して保存する。

マイバッグを使う

買い物でレジ袋を買わず、マイバッグを持ち帰れば、プラスチックごみを減らせます。



マイボトルを使う

マイボトルを使用することでペットボトルや空き缶などを減らせます。また、自宅で用意した飲み物を持参することで、日々の出費を減らせます。



活用

電動式生ごみ処理機



電動処理により、生ごみの量や臭いを減らせる機器。

補助金額
購入金額の50%以内
(限度額 50,000円)

コンポスター容器



土中に一部埋め込み、生ごみをたい肥化する容器。

補助金額
購入金額の50%以内
(限度額 4,000円)

生ごみの減量化に向けて、家庭から出る生ごみを、生ごみ処理機器などを購入・設置して自家処理されるご家庭に補助金を交付しています。
家庭から排出される生ごみは、年間約2400トと推測されます。
生ごみ処理機器の購入補助制度をご利用いただき、生ごみの減量化・資源化・ごみ処理経費の削減にご協力ください。



補助金は
こちら

ごみ減量化機器設置補助金
をご存じですか？